



1. みんなで関わる野鳥公園

(1) 多様な主体との連携

野鳥をはじめとする自然の保全等は、市民やNPO、企業等の自主的な活動が大きな役割を担っているため、魅力的な野鳥公園をつくり、育てていくためには、これらの主体との連携が重要です。

(2) 市民参加

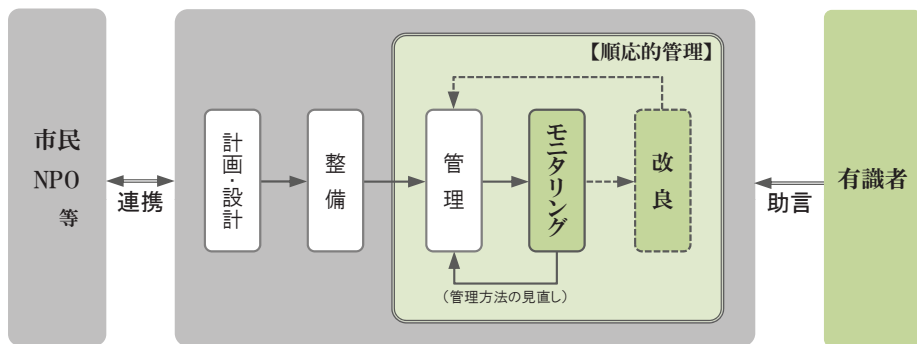
市民一人ひとりの環境意識向上の観点からも、野鳥公園の管理運営に、市民が積極的に関わることができる仕組みづくりが必要です。

[イメージ]



2. 順応的管理手法の導入

- ・野鳥公園の一部エリアでは、整備しながら自然の状況変化に柔軟に対応できるよう、順応的管理手法を導入します。
- ・野鳥の飛来や自然の成長等について目標を設定し、定期的にモニタリングすることにより、状況を把握するとともに、管理方法の見直しや、必要に応じて施設の改良を行っていきます。
- ・目標の設定や管理方法、モニタリングによる整備効果の検証については、有識者による学術的な助言をはじめ、市民やNPO等の意見を伺いながら進めていきます。



<順応的管理のイメージ>

3. 身近な環境学習の拠点づくり

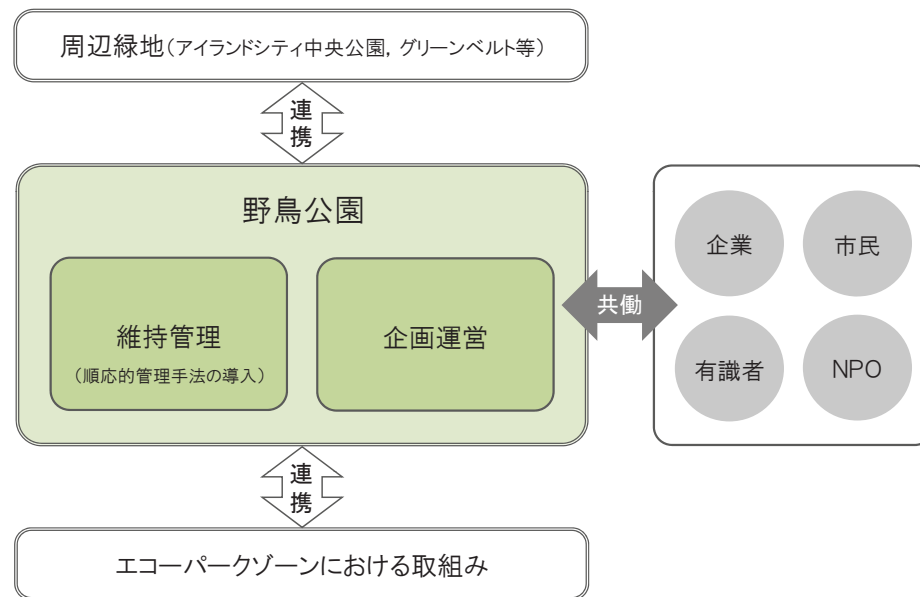
エコパークゾーンは、150万の人口を抱える都心近くありながら、豊かな自然環境が存在する貴重な空間であり、市民の環境学習の場として大変重要な役割を担っています。野鳥公園は、エコパークゾーンと市民との接点として、市民に身近に活用されることが重要です。

(1) 企画運営

- ・野鳥公園がより多くの市民に利用され、市民の環境への関心を高めるため、専門性及び実行性を持った市民やNPO等と連携した企画運営を検討します。
- ・「野鳥公園ラウンジカフェ」でとりまとめられた活動プランをはじめ、環境学習プログラムやイベント等を充実していきます。

(2) エコパークゾーンや周辺緑地との連携

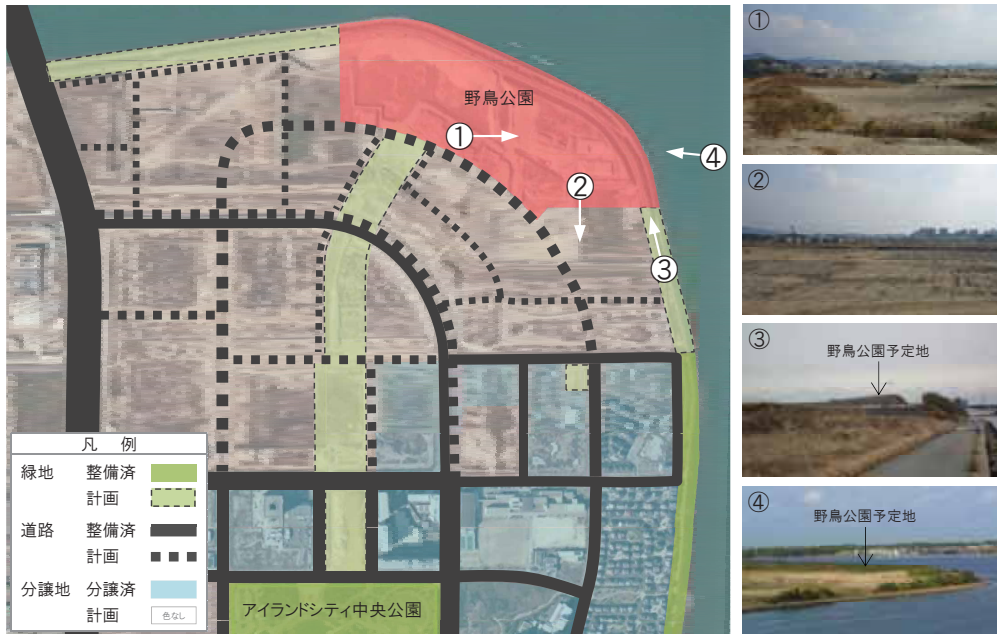
- ・野鳥公園の企画運営にあたっては、和白干潟の保全や和白海域の水質・底質改善など、エコパークゾーン全体の活動と一体となった取組みが必要です。
- ・アイランドシティ中央公園やグリーンベルト、外周緑地など、周辺緑地と連携した企画運営を検討します。



<野鳥公園の管理運営イメージ>

1. 野鳥公園周辺の基盤整備状況 (平成26年11月現在)

- ・現在、野鳥公園及びその周辺は、造成工事(地盤改良)を行っています。
- ・野鳥公園につながる道路や緑地を計画しており、順次整備を行っていく予定です。



< 基盤整備の状況 >

2. 整備の進め方

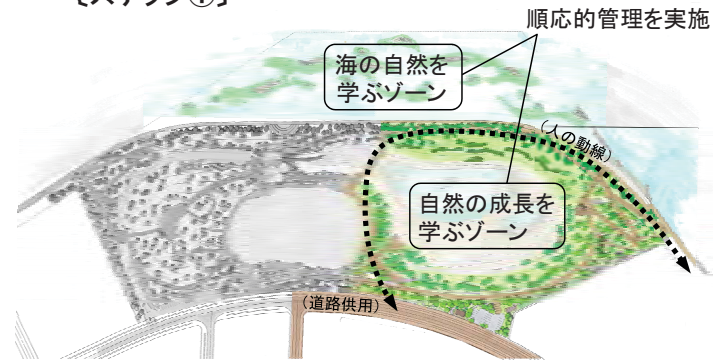
- ・最初に着手する「身近に生きものを感じられる空間」については、はじめから全てをつくり込まず、野鳥の飛来状況や自然の成長をモニタリングしながら、手を加えていきます。
- ・次に、「自然に親しむ空間」については、道路などの周辺基盤整備等に合わせ、順次整備・供用していきます。

ゾーン		(概ね10年間)		
		ステップ①	ステップ②	ステップ③
身近に感じられる空間	自然の成長を学ぶゾーン	湿地	成長(順応的管理)	
	海の自然を学ぶゾーン	石組み, 浅場		
自然に親しむ空間	海辺に親しむゾーン	外周緑地		
	自然を楽しむゾーン	広場, 築山	ガイダンスセンター	

< 段階的整備のイメージ >

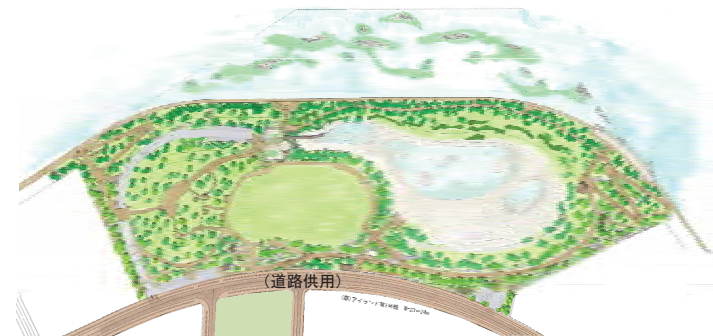
3. 供用イメージ

【ステップ①】



活動プランの例 (野鳥公園ラウンジカフェの成果)
○野鳥観察会
○生きもの観察会
○市民による植樹
○生物モニタリング・研究活動

【ステップ②】



活動プランの例 (野鳥公園ラウンジカフェの成果)
○眺望(ピクニック)
○家族での散策
○周辺小学校の遠足
○市民による植樹
○環境学習・イベント

【ステップ③】



< ガイダンスセンターの例 >

活動プランの例 (野鳥公園ラウンジカフェの成果)
○野鳥に関する講演会
○ボランティア養成講座
○公園の管理運営に関する集会
○野鳥に関する絵本を読む